日本薬学会

第 7 回全国学生ワークショップ

「医療そして社会への貢献
～私たちの未来を語ろう～」

報告書

平成 30 年 2 月

公益社団法人日本薬学会 The Pharmaceutical Society of Japan

参加者集合写真

情報交換会

Ⅰチーム

Ⅱチーム

Ⅲチーム

目　次

ページ

第７回全国学生ワークショップの概要 ・・・・・・・・・・・・・・ 1
プログラム ・・・・・・・・・・・・・・ 3
ワークショップ参加者および班分け ・・・・・・・・・・・・・・ 5
ワークショップ開催の経緯について ・・・・・・・・・・・・・・ 6
セッション報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 9
第一部「私たちの進路と夢」 ・・・・・・・・・・・・・・ 10
作業説明 ・・・・・・・・・・・・・・ 11
グループ報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 15
第二部「これからの医療や社会に貢献するために、
私たちに必要なものは何か？」 ・・・・・・・・・・・・・・ 40
セッションⅠ「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」 ・・・・・・・・・ 40
作業説明 ・・・・・・・・・・・・・・ 41
グループ報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 44
セッションⅡ「社会のニーズを満たす薬剤師は、
どんなことができるか？」 ・・・・・・・・・・・・・・ 76
作業説明 ・・・・・・・・・・・・・・ 77
グループ報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 79
教育講演１「今後の薬剤師に求められること
期待されること」 ・・・・・・・・・・・・・・ 103
第三部「生涯、どのように学んでいくか？」
「未来に向かって何をする！？」 ・・・・・・・・・・・・・・ 111
作業説明 ・・・・・・・・・・・・・・ 112
グループ報告 ・・・・・・・・・・・・・・ 114
教育講演２「薬剤師に求められる生涯研鑽の必要性」 ・・・・・・・・・・ 137
参加者印象記 ・・・・・・・・・・・・・・ 141
卒業生印象記 ・・・・・・・・・・・・・・ 172
参加者アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・・・ 175
薬剤師として求められる基本的な資質
に関するアンケート結果 ・・・・・・・・・・・・ 201

第７回全国学生ワークショップ実行委員 ・・・・・・・・・・・・・・ 207

第７回全国学生ワークショップの概要

平成 18 年４月に６年制薬学教育が始まって 11 年を経過した今年、70 の薬系大学・薬学部から１名ずつ６年次生が参加し、第７回全国学生ワークショップが開催された。本ワークショップの開催の経緯は以下のとおりである。

日本薬学会は平成 23 年度より薬学教育の在り方について議論を行う場として「薬学教育委員会」を設置した。薬学教育委員会の事業には、薬学教育に携わる大学教員や薬剤師のための FD（Faculty Development）が含まれており、その一貫として「薬学教育者のためのアドバンストワークショップ」を開催してきた。平成 23 年度の第１回アドバンストワークショップを企画する課程で、学習の主体である学生のニーズを確認する必要性が指摘された。同年度には６年制薬学教育の第１期生が最終学年を迎えることから、薬学教育に対するフィードバックを受ける目的で、全国の薬系大学・薬学部の６年次学生による「第１回全国学生ワークショップ」を平成 23 年８月に開催した。６年制薬学教育の成果と課題をテーマに活発な論議が行われる中で、参加者や薬学教育関係者から学生ワークショップの定期的な開催が強く要望された。

第２回からは下記のように１泊２日のプログラムとして継続している。平成 24 年８月に第２回（テーマ「６年制教育に望むこと、卒業後に取り組んで行きたいこと」）、平成 25 年８月に第３回（テーマ「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」）、平成 26 年８月に第４回（テーマ「私達が築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」）、平成 27 年８月に第５回（テーマ「私たちのプロフェッショナリズム、私たちが築く新しい医療と社会」）、平成 28 年８月に第６回（テーマ「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える～」）と６回にわたって全国学生ワークショップを開催してきた。

第７回全国学生ワークショップは、主催者に日本薬学教育学会も加わり、平成 29 年８月 11～12 日に行われ、卒業年次を迎えた第７期生 70 名と卒業生で本ワークショップの参加経験者８名が参加した。テーマは「医療そして社会への貢献～私たちの未来を語ろう～」とした。昨年度同様に 10 年後、20 年後を見据え、全ての薬学分野で活躍する ALL 薬剤師という観点で、社会の高齢化が進む中、社会が薬剤師に求めるニーズを考えてもらい、必要な資質・能力を討議した。また、薬学教育を振り返り、将来必要とされる資質・能力が６年制教育でどの程度身についたかも議論した。さらに、今回のワークショップでは、第２回、第６回のワークショップで実施した「薬剤師として求められる基本的な資質」に関するアンケートを昨年に引き続き実施した。10 の基本的な資質の修得度を自己評価するアンケートであり、過去２回と第７期生の自己評価を比較した。

本ワークショップでは、６年次生参加者 70 名は３チーム９グループに分かれ、各グループに１～２名のタスクフォースがついた。卒業生は、討議に参加しないオブザーバーとして参加し、それぞれ９グループのグループ討議を見守った。

１日目は、開会式後、各チームに分かれ自己紹介をした後、第一部「医療現場で印象に残っている場面」を World café の形式で行った。「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」、「私たちの進路と夢」と過去、現在、未来の３テーマについて自由に語り合った。第二部「これから医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」では、セッションⅠで、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」を KJ 法で抽出・整理した。これからの医療や社会はどうなるのかを話し合い、どんなことが必要かをまとめた。セッションⅡ「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか？」では、KJ 法で整理したニーズを１つ以上選び、選んだニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるかを文章で表現した。さらに、ニーズを満たす薬剤師ができることのうち、自分たちは６年間の学修でどこまでできるようになったかを討議し文章で表現した。１日目の締めくくりは、教育講演として、厚生労働省 医薬・生活衛生局 薬事企画官　紀平 哲也先生から「今後の薬剤師に求められること、期待されること」を拝聴した。セッション終了後、参加者全員が参加し、情報交換会を行い、その後の自由参加のアドバンスト情報交換会でさらに親睦を深めた。

２日目は、第三部「生涯、どのように学んでいくか？」では、前日にまとめた「ニーズを満たす薬剤師」になるために、これからどのように行動すればよいか。そして、そのような薬剤師になるためには、どのようなサポートや制度が必要かについて討議した。２日目の締めくくりとして、神戸大学名誉教授　平井 みどり先生から「薬剤師に求められる生涯研鑽の必要性」として、求められる社会のニーズや生涯研鑽の話を拝聴した。

最後の総合討論では、参加した学生が個々に想い思いの意見を発言し、熱い夏の２日間の幕を閉じた。

本報告書では、セッションごとにグループの担当者がまとめたセッション報告と参加者による印象記を掲載した。また、卒業生参加者の印象記も掲載した。参加者による１日ごとの評価結果と自由記述も掲載した。自由記述からは本ワークショップに対する参加者たちからの率直な思いが伝わってくる。また、「薬剤師に求められる基本的な資質」に関するアンケート結果も過去２回を含む３回分を比較する形で掲載した。

本報告書が今後の薬学教育の向上の一助となれば幸いである。

第７回全国学生ワークショップ

「医療そして社会への貢献　～私たちの未来を語ろう～」

主　催　：公益社団法人　日本薬学会・日本薬学教育学会
開催日時：平成 29 年８月 11 日（金）10：00～12 日（土）12：30
開催場所：クロスウェーブ府中（〒183－0044 東京都府中市日鋼町 1-40 TEL:042-340-4800
参加者　：大学６年次生 70 名（３P９S：１グループ７～８名）
　　：学生ワークショップ参加卒業生８名
会　場　：クロスウェーブ府中３階研修室

プログラム

第１日目：８月 11 日（金）

9：30～　参加者受付（３階）ビジネスルーム前
9：55　配布物確認
10：00　開会のあいさつ
10：05　ワークショップ開催の経緯
10：15　自己紹介

第一部「私たちの進路と夢」

10：30　作業説明　World café
10：45　テーマ１　「医療現場で印象に残っている場面)」
11：2　テーマ２　「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」
11：50　テーマ３　「私たちの進路と夢」

12：15　昼食

第二部「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」

セッションⅠ　「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」
13：15　作業説明（KJ 法）
13：25　小グループ討議（模造紙）
14：35　発表（５分×３班)、合同討論（15 分）

15：05　休憩（コーヒーブレイク）

セッションⅡ　「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか？」
15：20　作業説明

15：30　小グループ討議（模造紙）

17：10　発表（５分）＋合同討論（５分）x　３班

18：00　教育講演１「今後の薬剤師に求められること、期待されること」
紀平　哲也先生

第２日目：８月 12 日（土）

第三部「生涯、どのように学んでいくか？」「未来に向かって何をする！？」

8：35　作業説明

8：45　SGD

10：00　発表（５分×３班)、合同討論（15 分）

10：30　休憩（コーヒーブレイク）

10：45　教育講演２「薬剤師に求められる生涯研鑽の必要性」
平井　みどり　先生

第四部「総合討論」

11：15　総合討論

12：00　閉会のあいさつ

12：05　２日目アンケート、総合評価アンケート

12：30　解散（昼食を食べた後、参加者帰宅）

ワークショップ参加者および班分け

Ⅰチーム

チーフ: 河野武幸

A班	
赤星　璃	熊本大学
小林　奈緒	東京薬科大学
更科　壮太	北海道大学
下反　淳平	姫路獨協大学
田中　美帆	北里大学
火口　裕弥	就実大学
山下　佑麻	近畿大学
結城　友香子	昭和薬科大学

タスクフォース: 大津史子

B班	
石野　清亮	静岡県立大学
大越　優衣	東北医科薬科大学
落合　翔	昭和大学
西原　冴佳	同志社女子大学
前田　竜太郎	崇城大学
松村　永寿	第一薬科大学
宮原　有里	岐阜薬科大学
森山　保乃花	東京理科大学

タスクフォース: 小佐野博史

C班	
秋葉　健太	大阪薬科大学
古志野　利孝	九州保健福祉大学
西田　未奈	武庫川女子大学
服部　肇	名古屋市立大学
細井　麻由	徳島大学
松上　拓樹	北陸大学
藁谷　美保	いわき明星大学

タスクフォース: 入江徹美・安原智久

Ⅱチーム

チーフ: 中村明弘

A班	
大泉　杏奈	武蔵野大学
亀井　里歩	摂南大学
菊山　史博	慶應義塾大学
西口　楓	兵庫医療大学
信江　利香	新潟薬科大学
平町　隆明	広島国際大学
嶺井　雄志	長崎大学
吉田　尋耶	徳島文理大学香川

タスクフォース: 川崎郁勇

B班	
宇田　有沙	福山大学
太田口　義智	奥羽大学
河合　洋幸	京都大学
小林　千華	神戸学院大学
瀧澤　聡	千葉科学大学
内城　研吾	帝京大学
野添　亜美	金沢大学
山本　花菜	金城学院大学

タスクフォース: 木内祐二・高橋　寛

C班	
越智　富美江	千葉大学
児玉　章弘	星薬科大学
清水　智仁	明治薬科大学
角野　拓海	立命館大学
長峰　由樹	大阪大谷大学
南雲　美奈代	高崎健康福祉大学
畑澤　莉奈	国際医療福祉大学
門馬　美佳	北海道医療大学

タスクフォース: 大野尚仁・井上裕文

Ⅲチーム

チーフ: 鈴木　匡

A班	
天野　郁子	神戸薬科大学
岡田　悌明	城西大学
越智　万優子	京都薬科大学
工藤　碧美	岩手医科大学
國安　和仁	富山大学
後藤　千尋	岡山大学
宮崎　公輔	愛知学院大学
森　安大	城西国際大学

タスクフォース: 賀川義之

B班	
笠原　優世	東邦大学
北野　智愛	松山大学
白石　ちひろ	福岡大学
鈴木　悠斗	日本大学
竹内　健悟	名城大学
東　麻奈美	徳島文理大学
藤原　賢典	大阪大学
森田　朱莉	九州大学

タスクフォース: 徳山尚吾・大柳賀津夫

C班	
吉瀬　宏樹	長崎国際大学
熊谷　奈々	日本薬科大学
下中村　雅	広島大学
大聖　貴之	北海道薬科大学
仲條　嵩久	東北大学
三浦　美香	帝京平成大学
村木　麻美	鈴鹿医療科学大学

タスクフォース: 田村　豊

講　師	
紀平　哲也	厚生労働省
平井　みどり	神戸大学名誉教授

オブザーバー	
前島　一実	文部科学省
福村　基徳	文部科学省
平尾　英里	文部科学省
上野　俊作	文部科学省

事務局	
寺沢　静恵	日本薬学会
奈良　洋	日本薬学会

ディレクター	
奥　直人	会頭
赤池　昭紀	薬学教育委員長

タスクフォース	
井上　裕文	福山大学
入江　徹美	熊本大学
大津　史子	名城大学
大野　尚仁	東京薬科大学
大柳賀津夫	北陸大学
賀川　義之	静岡県立大学
川崎　郁勇	武庫川女子大学
木内　祐二	昭和大学
河野　武幸	摂南大学
小佐野　博史	帝京大学
鈴木　匡	名古屋市立大学
高橋　寛	岩手医科大学
田村　豊	福山大学
徳山　尚吾	神戸学院大学
中村　明弘	昭和大学
安原　智久	摂南大学

卒業生		参加WS
佐々木将太郎	東邦大学薬学部	第1回
小嶋　崇弘	ゴリラ薬局	第2回
相良　篤信	名古屋大学医学部附属病院薬剤部	
津倉　秀幸	国立がん研究センター中央病院薬剤部	第4回
鶴留　優也	九州大学大学院薬学府薬剤学分野	
吉田　優哉	九州大学薬学府薬学研究院	第5回
上嶋　仁美	岡山大学病院薬剤部	第6回
大平　奈穂	サンドラッグ 樽町リリア薬局	

卒業生担当:鈴木　匡

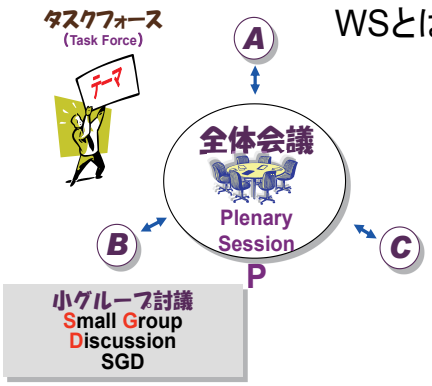
第７回全国学生ワークショップ

ワークショップ開催の経緯と概要

実行委員長　高橋　寛

2017年8月11日(金)
クロスウェーブ府中

日本薬学会･日本薬学教育学会



WSとは？

日本薬学会　第７回全国学生ワークショップ

構成

○ 各班は７～８名で　１班（S）

A班 ・ B班 ・ C班

○ ３つの班で１チーム（P）：Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

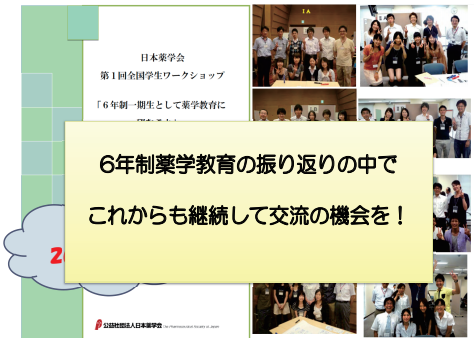
ⅠA ・ ⅠB ・ ⅠC
ⅡA ・ ⅡB ・ ⅡC　3P
ⅢA ・ ⅢB ・ ⅢC　（全9班）

まずは同じ班から、そしてたくさんの仲間と
話して、考えて、仲良くなろう！
ここにいる仲間は一生「同期生」です！

６年制薬学教育を支える機関、団体等

文部科学省、厚生労働省
日本薬学会、日本薬学教育学会
全国薬科大学長･薬学部長会議、国公立大学薬学部長(科長･学長)会議
日本私立薬科大学協会
薬学共用試験センター、薬学教育評価機構
薬学教育協議会、日本薬剤師研修センター
日本薬剤師会、日本病院薬剤師会ほか

全国学生ワークショップ



過去６回のテーマ

第1回 「6年制一期生として薬学教育に望むこと」
2011年8月4日(木) 大阪大学中之島センター

第2回 「6年制薬学教育に望むこと、卒業後に取り組んでいきたいこと」
2012年8月7日(火)～8日(水) クロス・ウェーブ府中

第3回 「医療への貢献、社会への貢献：これから薬剤師としてどのように行動するか」
2013年8月10日(土)～11日(日) クロス・ウェーブ府中

第4回 「私たちが築く新しい医療と社会：将来への思いを共有しよう」
2014年8月9日(土)～10日(日) クロス・ウェーブ府中

第5回 「私たちのプロフェッショナリズム私たちが築く新しい医療と社会」 2015年8月8日(土)～9日(日) クロス・ウェーブ府中

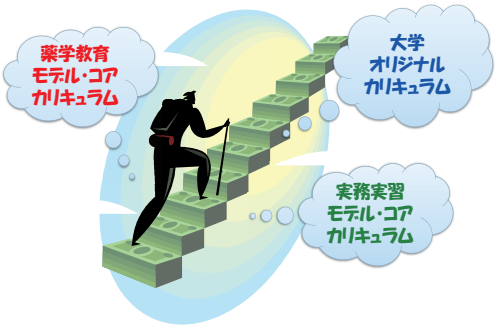
第6回 「社会が私たちに求めているものは何か？ ～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える～」
2016年8月6日(土)～7日(日) クロス・ウェーブ梅田

先生たちも・・・

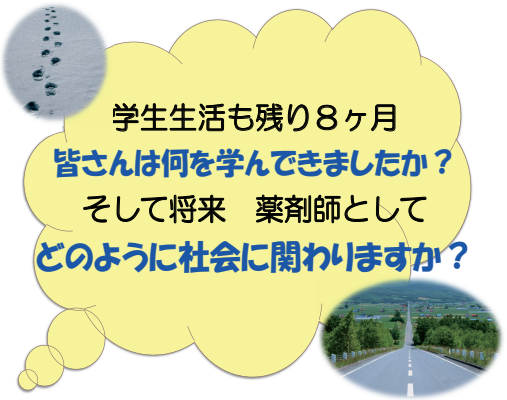
日本薬学会
薬学教育者のためのアドバンストワークショップ

第1回 2011年12月
第2回 2012年11月
第3回 2013年10月
第4回 2014年11月
第5回 2015年10月
第6回 2016年12月
第7回 2017年 8月

６年制薬学教育プログラム



2018年4月 それぞれの進路へ・・・



第７回全国学生ワークショップ

2017年8月１１・１２日
クロスウェーブ府中

ALL薬剤師

医療そして社会への貢献
～私たちの未来を語ろう～

参加者　７０名（７０大学）
タスクフォース　16名（13大学）
第1回～第６回参加者　８名

プログラム概要

１１日（金）
10:15　アイスブレイク　P
10:30　第一部　P
13:15　第二部（Ⅰ）　3P⇒S⇒P
15:20　第二部（Ⅱ）　3P⇒S⇒P
18:00　教育講演1　3P
19:15　情報交換会　3P
23:00　終了

１２日（土）
8:30　アンケート結果報告　3P
8:35　第三部　3P⇒S⇒P
10:45　教育講演2　3P
11:15　第四部（総合討論）　3P
12:30　解散

ワークショップのルール

- お互いに名前を呼びましょう：〇〇さん、〇〇くん
  ⇒　名札は見える位置に
- タスクフォースの大学教員も「先生」でなく「〇〇さん」で呼んで下さい。
- 集合時間を守りましょう。
- スマホ・携帯電話の電源は切っておきましょう。

大学から1人しか参加していないからといって大学を代表する必要はありません。
みんな仲間と思って、意見交換を積極的に楽しんで下さい。

では

各チーム（P）に分かれて
ワークショップの開幕です！

荷物はここに置いて貴重品をもって
3階にある各Pの部屋に移動してください。

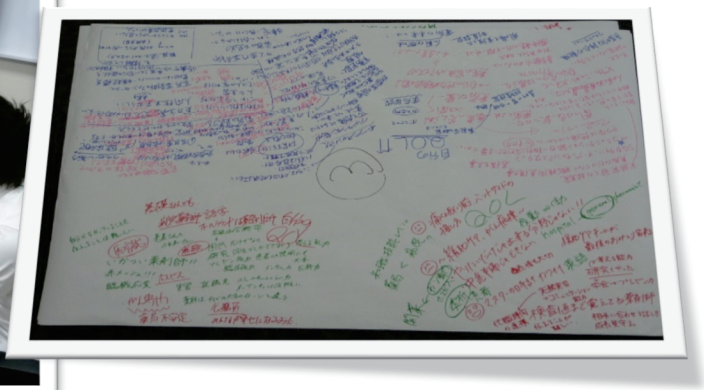
セッション報告

第一部
「私たちの進路と夢」

テーマ１　「医療現場で印象に残っている場面）」

テーマ２　「６年間の学修で身についたこと
・やりたかったこと」

テーマ３　「私たちの進路と夢」



第一部

World Café

「私たちの進路と夢」

日本薬学会第7回全国学生ワークショップ

World Café とは？

World Café はグループワークの一つのやり方です。これから皆さんは、世界を旅する「旅人」になります。

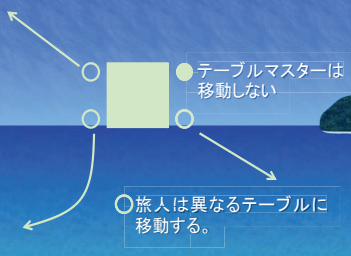
旅人は、出会った場所で“おしゃべり”や“落書き”をして、また別の場所に旅立っていきます。

今日は、旅をしながら3回のおしゃべりや落書きをしましょう。

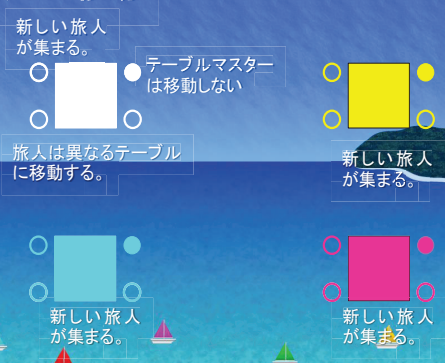
World Café の方法

- 4名くらいのグループで「おしゃべり（ラウンド）」を行いますが、テーマごとにメンバーを入れ替えます。
- テーブル毎に「テーブルマスター」を決めます。テーブルマスターは固定で、司会を担当します。
- 1回のラウンドは20分～30分で行います。ラウンドが終わると、旅人は別のテーブルに移動します。このとき、なるべく違う旅人同士が集まるように移動しましょう。

旅人の移動



旅人の移動



テーブルマスターのお仕事

1. 各テーブルにおける「おしゃべり」が盛り上がるように工夫してください。
2. 第1ラウンドでは、指定されたテーマでの「おしゃべり」の司会をお願いします。
3. 第2ラウンド以降は、旅人の「自己紹介」の前に、テーブルマスターは、前のラウンドで印象に残ったお話しを1分で紹介して下さい。その後、そのラウンドのテーマの「おしゃべり」の司会をして下さい。
4. 旅人は「おしゃべり」に夢中になる傾向があります。旅人に「落書き（気付きや感想）」をするように促して下さい。
5. 第1部の報告書（概要と感想A4 1枚）を担当して下さい。

模造紙の提出はありません
旅人の落書き帳です！

落書きはたくさんあるほど楽しいです！

World Café では…

- たくさんの旅人と知り合いになれます。
- ということは、いろいろな人の話が聞けます。
- いろいろなお話し（他花受粉）によって、新しい発想が生まれます。
- でも、「声の大きい人」の旅の軌跡が分かってしまいます。
- テーブルマスターは、ちょっと大変なので、旅人は「利他的」な行動をお願いします。
- 自由討論での発言は、1回一人1分以内でお願いします。

今日の World Café のスケジュール

移動
10:45 ～ 11:20　第 1 ラウンド

移動
11:25 ～ 11:45　第 2 ラウンド

移動
11:50 ～ 12:15　第 3 ラウンド

第 1 ラウンドのグループ編成

- 今から P のメンバーでグループを6つ作ります。
- P会場をCaféに模様替えしつつ、グループを作ります。少しだけお手伝い下さい。
- 時間の都合上、テーブルマスターはこちらで指名させていただきます。
- 旅人になった方は、各テーブルに移動して下さい。旅人の定員は2～3名です。

テーブルの位置とテーブルマスター

名簿の1番目と5番目のひと

1 天野　郁子 さん	2 國安　和仁 さん	3 笠原　優世 さん
4 竹内　健吾 さん	5 吉瀬　宏樹 さん	6 仲條　嵩久 さん

Welcome to
World Café Pharmacy

第1ラウンド

第1ラウンド

「医療現場で印象に残っている場面」

10:45 ～ 11:20 （35分間）

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 医療現場で印象に残った場面を絵に描いて下さい。もし、素晴らしい人との出会いがあれば、その人の絵でもOKです。(5分)

歴史に残る名画は
期待していません。

印象に残っている場面を描いてみましょう！

グループ・イニシャル

絵の中に説明は書かなくて結構です。

グループ名と名前あるいはイニシャルを入れておいて下さい。

第1ラウンド

「医療現場で印象に残っている場面」

10:45 ～ 11:20 （35分間）

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 医療現場で印象に残った場面を絵に描いて下さい。もし、素晴らしい人との出会いがあれば、その人の絵でもOKです。(5分)
- まず、絵だけをメンバーに見せて、クイズ形式でメンバーにどんな場面か答えてもらって下さい。その後、自己紹介を兼ねて「絵」を紹介して下さい。
- 話しを聞きながらできるだけたくさん模造紙に落書きをして下さい。

移動です

- 絵を近くのタスクに渡して下さい。
- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- なるべく第1ラウンドのメンバーと同じにならないように！
- 各テーブルの旅人の定員は2名～3名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。

Welcome to
World Café Pharmacy

第2ラウンド

第2ラウンド

「6年間の学修で身についたこと
・やりたかったこと」

11:25 ～ 11:45 （20分間）

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 自己紹介と第1ラウンドで印象に残った話の紹介をして下さい。（1人1分程度）
- 6年間の学修で「身に付いたこと・やりたかったこと」を紹介して下さい。（1人1分程度）
- 話しを聞きながらできるだけたくさん模造紙に落書きをして下さい。

移動です

- 旅人は、旅に出て別のテーブルに移動して下さい。
- なるべく第1、第2ラウンドのメンバーと同じにならないように！
- 各テーブルの旅人の定員は2名～3名です。テーブルマスターは人数を調整して下さい。

Welcome to

World Café Pharmacy

第3ラウンド

第3ラウンド

「私たちの進路と夢」

11:50 ～ 12:15 （25分間）

- テーブルマスターは司会役をお願いします。
- 自己紹介と第2ラウンドで印象に残った話の紹介をして下さい。（1人1分程度）
- 「こんなことも学んでいきたい。」という卒業後の学修なども含めて自分の進路と夢を話して下さい。
- 話しを聞きながらできるだけたくさん模造紙に落書きをして下さい。

終了！

①4階に移動して昼食です。

②13時15分までに3P会場に集合して下さい。

ＩＡ班－１

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式で討論を行った。４名のグループでラウンドごとにメンバーを入れ替え、気付きや感想を模造紙に記録した。各ラウンドの討論について以下にまとめる。

第１ラウンド「臨床現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは上記のテーマで、各自が絵を書き、その絵を見せ合いながら討論を進めた。ラウンド前半は、長いリハビリ中の患者さんと会話することや、病気の進行具合をカンファレンスで知ることなどから、実習を通して病気や死を身近に感じたという意見が出され、医療の現場で働くことの覚悟などを話し合った。また、在宅に同行した際に薬剤師がバイタルサインの異常に気付き、救急車を呼んで病院に搬送した場面が印象的だったという意見が出され、薬剤師がフィジカルアセスメントの能力を身に着ける必要があると感じた。

ラウンド後半では薬局内での服薬指導時のコミュニケーションが話題にあがった。ずっと真顔で話してしまい、重い雰囲気になってしまったことなど、服薬指導での失敗談が挙げられた。全員がコミュニケーションの難しさは感じていたが、実習中に少しずつ改善していけたことや、もっとこうしたかった、こうすれば上手くいくかもしれない、など最終的に前向きな意見を交換することが出来た。

第２ラウンド「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは上記のテーマで各自の思うことを自由に討論した。６年間で身についた知識は多く、自身の成長を感じるという意見には全員が賛同した。医療に対して、興味・関心をもって学習するため、身につきやすかったという意見も出た。また、実習では実際のコミュニケーションを学ぶことができ、知識だけでなく、経験や技術も少しは身についたのではないかという意見も挙げられた。

後半は大学独自のカリキュラムの違いについて、特に私立大学と国公立大学の違いが話題の中心となった。授業内容や試験、国試対策、研究室、論文についての質問がされた。共通点や異なる点など他大学と自身の大学を比べることで、自身の大学の特色を知ることが出来た。

第３ラウンド「私たちの進路と夢」

第３ラウンドも上記のテーマで自由に討論をした。健康相談ができる薬局に興味がある、チーム医療にかかわりたい、災害医療に関わりたいなどの意見が挙げられた。

ラウンド前半では、健康サポート薬局について討論した。未病の段階で介入し健康相談できる薬局が今度求められていくとは思うが実際にはなかなか難しく、どんなことをすれば良いのか、成功例はあるのかなどの意見に対し、地域の方から健康相談を受けて、予防医療の観点をもち、食材からのアプローチなどを実践している薬剤師の方の話を共有した。

ラウンド後半にはチーム医療について、他職種との連携が話題になり、他の医療職種の学部の学生との合同授業や、学生で企画した交流会などにより、学生時代から相互理解を深めるための試みについての意見が出された。また、実習中の他職種との関わりについては個人差が大きく、実際の医療現場では多職種連携がまだまだ進んでいないところもあり、その難しさについて意見が交換された。

総括

全員が協力的に動いてくれたおかげで、どのラウンドでもすぐに打ち解け、良い雰囲気で自由な討論を行うことが出来た。自分の意見をはっきりと口にし、討論できる機会は今までなかなかなく、今一度、自分の考えや将来について見つめ直すきっかけとなった。様々な意見や考え方、視点を知ることができた討論であり、交流を深める面でも有意義な時間になったと感じる。

ＩＡ班－２

第一部では、「私たちの進路と夢」というテーマのもと、World Café 形式で全３ラウンドの討論を行った。各ラウンドにはそれぞれ小テーマが与えられ、テーマに関する意見を交換し、気付きや感想を模造紙に自由に記入した。各ラウンドにおける討論内容を以下にまとめる。

第１ラウンド「医療現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは、上記のテーマに沿って各々が絵を描き、絵の内容をクイズ形式で紹介しあう形で討論を進めた。主に話題に上ったのは円滑なコミュニケーションの重要性についてである。薬剤師間の意識に差があり、薬剤部内の関係が悪く過ごしづらい実習だったことや、薬の用量について不適切な使用を医師へ確認したところ冷たい対応をされたが、後に適切な用量に修正されていたことのように、ネガティブな経験が挙げられた。一方で、病棟の電子カルテを共用とし、多職種が垣根なく話すことが出来る環境作りがなされていることがポジティブな経験として挙げられた。
以上より、円滑なコミュニケーションには、医療者が互いに配慮し相手の話を聞くことが必要であると再確認することが出来た。このラウンドでは、４人中２人がネガティブな経験が印象的だったとしていた。このような経験を反面教師として、私たちが薬剤師となったときに他者の話に耳を傾けるよう心掛けることが出来れば良いと感じた。

第２ラウンド「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは、上記のテーマについて自由に意見を交換した。６年間で身についたこととして、アルバイト先の人から刺激を受け、薬学以外の分野にも関心を持とうと思ったことや、学会への参加を通じて得たプレゼン能力などが挙げられた。やりたかったこと

として、留学生との関わりから語学の学習への積極的な取り組みが挙げられた。いずれの話題においても自分自身が能動的に取り組むことで得られる意識・能力であるという結論に至った。このラウンドではアルバイト経験やサークル活動の話題も上り、和気あいあいとした雰囲気の中、互いのことを知ることが出来た。

第３ラウンド「私たちの進路と夢」

第３ラウンドでも、上記のテーマについて自由に意見を交換した。「博士の知識を持った薬剤師になり、臨床だけでなく橋渡し研究をしたい」「連携が希薄な地元の小児医療に携わり、全国に連携のネットワークを広げたい」「薬局のマネジメントをしたい」などの目標が挙げられた。また、「女性としてのワークライフバランス」が話題に上り、進路によって考えが異なることや、現状では専門性の強化と結婚・出産などのライフステージの変化への対応を両立することが難しいことについて意見を交わした。

それぞれの夢は異なるが、根底には患者さんのためになることをするという共通した意識があった。また、ワークライフバランスの話題から、全員に 10 年後も薬剤師として活躍したいという思いがあることを確認した。

総括

グループ全体が話しやすい雰囲気作りに協力してくれたため、開始後すぐに打ち解け、活発に意見を交わすことが出来た。それぞれの経験の違いから、自分にはない考えに触れることが出来たことはとても刺激になった。また、自分の考えに対して多様な反応を得たことは、考えを更に深めるきっかけになった。全体を通じて今回の討論では非常に有意義な時間を過ごした。

ＩＢ班－１

第一部では「私達の進路と夢」というテーマで World Café 形式で討論を行った。３～４名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

＜第１ラウンド＞「臨床現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは、臨床現場で印象に残っている場面を絵で表現し、メンバーに見せながらその状況を説明した。

・どんなに忙しいときでも、一人の患者のために全員で動いていた緩和ケアチーム
・見た目は派手だが人間性、能力共に素晴らしく、女性高齢者のファンがつくほどの女性薬局薬剤師
・ミキシング時に怪我をしてしまったこと
・ベッドサイドでの説明時に患者さんの気持ちをくみ取ることができず怒られたこと

第１ラウンドでは上記のような意見が出た。病院、薬局実習中に経験したことをベースに話し合いが弾んだ。今後医療に携わる者として、良いところだけではなく最期の見送りなど辛い場面も経験させてもらったメンバーもおり、覚悟を決めて薬剤師という職に就かなければならないと強く実感した。実習中の様々な経験を乗り越えて、職種間連携の大切さや、患者さんだけではなく家族に対するケアの重要性、薬剤師の職能を改めて見直すことができたラウンドだった。

＜第２ラウンド＞「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは､大学生活６年間での自身の成長ややり残したことについて話し合った。

・研究を通じて物事を深く考えるようにできるようになった
・勉強に対するモチベーションの上げ方
・オープンキャンパススタッフを経験したことによる、コミュニケーション能力の向上
・メンタルが強くなった
・もう少し研究に時間をかけたかった
・病態的な視点の勉強を深く学びたかった
・語学の勉強をしておきたかった

第２ラウンドでは上記のような意見が出た。大学によっては研究をしない人も多いらしく、研究を通じて培われた思考の仕方やプレゼン能力は、臨床の現場でも必ず必要となってくるため、大学として力を入れてもらいたいという意見がある一方、最低限国家試験に受からなければいけない必要があるため、研究は行いたい人が時間をかけて行えばいいのではないかという意見もあった。また、幅広い年齢層の方とのコミュニケーション能力の向上を図れたことにより、当たり前と思っていたことが相手にとって当たり前ではないことを知り、相手に合わせた説明の仕方を学ぶことができたという意見が出た。

＜第３ラウンド＞「私達の進路と夢」

第３ラウンドでは、卒業後の自分の進路と、自分の夢について話し合った。

・オールラウンド、ジェネラリストな薬局薬剤師
・みんなが幸せになれるような制度を設立するために厚生労働省
・動態学の知識を生かし、透析治療が有名な病院での病院薬剤師
・病院薬剤師として知識を吸収してからの薬局開設

第３ラウンドでは上記のような意見が出た。様々な病態をみるだけではなく、様々な人種の患者さんと関われるように語学の勉強にも励んでいるメンバーがいる一方、実習で現場を体験したからこそ、現場を重視した制度を作りたいというメンバーもいて、誰一人として似たような夢を持つメンバーはいなかった。薬剤師の多様性を見直すことができたラウンドであり、だからこそ自分が本当にやりたいことに飛び込んでいける分野であることを実感できた。

Ｉ Ｂ班－２

第一部「私たちの進路と夢」　World Café 方式

○テーマ１「医療現場で印象に残っている場面」

・在宅薬剤訪問管理への同行（２名）
・病院実習での手術見学
・病棟での指導薬剤師の服薬指導

テーマ１では４名それぞれがテーマに沿った絵を描いて発表した。４名中２名が在宅の場面を描いており、患者さんのお宅へ訪問し薬剤管理を行う薬剤師の姿が印象に残ったということであった。手術見学については普段では経験できない内容であり、病院実習ならではの内容であった。病棟での服薬指導については、受容体レベルまでについて話をし、それを患者さんが理解してくださり納得していただく姿を見て、相手に合わせた言葉の遣い方などを学ぶことができた。また、絵を描いた以外にも、いくつかの病院を回り特に精神科病棟の大変さが印象的だったという意見もあった。

○テーマ２「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」

・薬学、医学的な専門知識
・様々な地域出身の人や、高校時代より多くの人たちと関わりを持つ中で多様性を受け入れる力がついた。
・コミュニケーション能力が身についた。
・医療系学生ということでアメフト部のチーム Dr を経験できた。
・実務実習で多職種連携、チーム医療の必要性を実感できた。
・行動力がついた。
・薬学、薬剤師業界の狭さを知った。
・医療系学生団体に所属することで、他大学の人と繋がりを作れた。
・低学年のうちに現場の先生の話を聞く機会がほしかった。
・今回のワークショップのように他大学の学生ともっと交流したかった。
・医学部や看護学部等、医療系他学部と関わるような学習をしたかった。
・大学の休みを利用してより様々な場所へ行っておきたかった。

最も印象的だったのは、満場一致でもっと他大学の学生との関わりを持ちたかったという意見だった。私自身、日本薬学生連盟や他の医療系学生団体の存在を知ったのが５年の実務実習時であり、それ以前はほぼ他大学との関わりはなかった。他の学生も同様に低学年のうちから今回のワークショップのように他大学と繋がりを持てるとより自分の知見が広がり、普段の勉強へのモチベーションにも繋がっただろうという意見だった。それぞれからより自分の世界を広げたいという意識が感じられ、現場に出てからチーム医療に携わる身としては必要なことだと感じた。

○テーマ３「私たちの進路と夢」

・在宅医療に関わる薬局薬剤師
・がん専門薬剤師
・博士号を持った病院薬剤師
・妊婦、授乳婦専門薬剤師
・薬剤師もフィジカルアセスメント等を通じて患者さんの状態を確認できるようなスキルを持つ
・女性目線で患者さんの役に立ちたい
・薬剤師だけでない多職種の在宅ステーションを作りたい
・薬剤師以外の職種についても学びたい

まず、将来は専門の認定をとりたいという意見が多かった。現在、薬剤師にも様々な認定がある中で、それぞれが得意分野を持つにはより勉強が必要になるので素晴らしい意識だと感じた。それ以外でも、薬剤師になってからのより発展的な勉強に意欲を持っている学生が多く、お互いの刺激になる討議だったと思う。

ＩＣ班－１

第一部では、「私たちの進路と夢」というテーマで World café 形式を用いて討論を行った。
各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

●第１ラウンド：「医療現場で印象に残っている場面」

場面を絵に描き、他のメンバーにクイズ形式で答えてもらった。

・在宅訪問時にインスリンの服薬指導を行った際、逆に、使い慣れた患者さんから勉強させていただいた。
・薬剤の払い出しの際、「ミスしないことが当たり前」という薬剤師の仕事の責任の大きさを実感した。
・抗がん剤を使用している患者さんの不安に寄り添い、安心感を与える薬剤師の対応。
・服薬指導後、薬剤師が患者さんから「あなたに話してよかった。」と声をかけられていた。

実習中に目にした薬剤師の対応や、実際に患者さんと接した経験についての意見が多かった。メンバーそれぞれが、実習先で患者さんに対応する薬剤師の姿を見たことで、信頼関係を築く上でも患者さんとの距離感が大切だと感じたと話していた。また、自分の実習先での在宅医療やかかりつけ薬剤師の普及具合や、その必要性についての話し合いにも発展した。

●第２ラウンド:「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」

・大学での人との関わりや授業での SGD 等を通して､コミュニケーション力が身についた。
・時間の使い方を工夫して限られた時間の中でも勉強する集中力が身についた。
・「薬剤師の仕事の幅」を知った。
・分からないことを自分で調べる癖が身についた。
・もっと他学部と交流したかった。
・留学してみたかった。

大学での勉強や人との交流から身についたことや学んだことなど様々な意見が出た。やりたかったこととしては、薬学部以外の学部との交流を深めたかった、留学を通して日本と海外の薬剤師の違いを学びたかったなどの意見が出た。

●第３ラウンド:「私たちの進路と夢」

・薬剤師として働くことで地域を支えたい。
・薬剤師＝調剤というイメージを変えたい。
・薬剤師という仕事に対する不安から、今後はレジデントとして経験を重ねていきたい。

「地元で高齢化の現状を目の当たりにし､なんとかして地域を支えたいと考えた」「薬剤師の仕事の幅を学んだからこそ､薬剤師に対するイメージを変えたい」という意見が出た。しかし、仕事の幅が広がるほど、それに伴う責任も大きくなる。実習を通して、１年後の自分にこれほどの仕事ができるのかという不安を感じ、そのためにレジデントとして２年間学ぶという進路に進むメンバーもいた。

●全体を通して

一つの話題に対する各々の意見をグループ内で共有し、お互いに積極的に質問し合い話し合うことができたと思う。異なる視点からの意見を持った全国の薬学生と、その意見を交換し合うことで、自分にはない考え方を聞くことができてとても刺激を受けた。

ＩＣ班－２

第１ラウンド　「医療現場で印象に残っている場面」

・病院の実務実習で ICU 常駐の薬剤師がおり、多様な薬物療法に介入をしていた。
・病棟でテレビを見てこちらの話を聞いてくれない患者さんがいた。すると薬剤師がテレビの間に割り込んで服薬指導を行っていた。こちらに話を聞かせるような工夫をすることが大切だと学べた。
・病院で毎日欠かさず朝のミーティングを行って患者情報の共有を行っていた。
・チーム医療において薬剤師が薬学的知見からだけでなく患者背景までさかのぼり、服薬

指導を行っていた。

病院実務実習の内容が多かった。中でも皆、薬剤師が患者さんに対してどのように接していたかについて皆、深い印象を持っていた。

第２ラウンド　「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

・アメフト部でメディカルドクターをしていて授業では学べないスポーツ治療について知識を身につけることができた。
・高校まで文系で理系の勉強をしてこなかった。大学に入って最初は苦労したが教授・友達に出会い様々なことを教わり勉強する習慣が付いた。
・もっとたくさんの種類のバイトをして社会勉強したかった。
・学友会活動で人前に立つ機会が増えて、人前でも臆せず自分の意見を言えるようになった。

身についたことに関しては勉強内容が多かった。

第３ラウンド　「私たちの進路と夢」

就職先では国家公務員、病院薬剤師、薬局薬剤師、大学院進学と様々であった。メンバーは共通して「患者さんの健康を守る」という考えをもとに具体的になにがしたいのかしっかりとしたプランを持っていた。薬局ではかかりつけ薬剤師として病気になる前から予防し、患者さんの生活習慣から改善していきたいという意見が上がった。

薬剤師としてまず患者さんの立場に立ち医療者に何がしてほしいか考え、さらに患者さんの気持ちを聞きだす力、そしてそれを受け止める包容力が求められると理解できた。

全体を通して

今回 World Café を通して、全国から集まった皆の思い、目標像を聞くことができた。また自分が発言して皆から質問され改めて自分のやりたいことについて見つめ直せる良い機会となった。初めは皆ぎこちなかったが、話し始めるにつれ盛り上がり各々いい刺激を受けたと思う。

Ⅱ A 班－１

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World　Café 形式で討論を行った。３～４名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめた。

<第１ラウンド>「医療現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは実際に医療現場に行った際に最も印象に残った場面をＡ４白紙に言葉を用いず絵のみ書いた。その後メンバー内でその絵が何を表しているのかクイズ形式で答えた。またメンバーの話を聞き印象に残ったことを各自が自由に模造紙に書いた。

書いた絵と印象に残ったこと

・小児科でマシャド・ジョセフ病の患者に会い、何もできないことを歯がゆく思った。
・感染症の神様と呼ばれる先生に会い自分もそのようになりたい。
・医師や看護師、薬剤師で回診に行き患者の前で処方変更するのを目にした。どのような薬があるのか医師に聞かれていたので採用薬についても詳しく把握する必要があると分かった。
・香川では病薬連携、薬薬連携が進んでいた。患者情報をクラウドで管理し、病院、診療所や薬局でカルテが見られるようになっていた。また薬剤師と医師がともに患者の居宅を訪問しその場で診察を行っていた。

第１ラウンドでは、上記のような意見が出た。実習先により学べたことに違いがあるとわかった。香川県では病薬連携、薬薬連携だけでなく、ピッキングから鑑査まで機械化している薬局や、生薬としてゴキブリを扱っている薬局など特色のある薬局を回ることができたそうだ。このラウンドを通して実習先により学べたことが異なること、また他の薬学生がどのようなことを学んできたのか知ることができた。

<第２ラウンド>「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは、６年間の学習で身についたこと・やりたかったことを発表し、印象に残ったことを模造紙に書いた。

身についたこと

・ストレス耐性
・コミュニケーション能力
・外国語
・手話
・知識量が自分より少ない相手に対する説明の仕方

やりたかったこと

・他の学部の学生ともっと話したかった。
・薬局実習先が目薬の処方が多かったので、他の薬局にも行ってみたかった。
・自分の進路により実習内容を選びたかった（開発、薬局、病院などコースを分けた実習がしたかった。）

第２ラウンドで上記のような意見が出た。身についたことでは、ストレス耐性、コミュニケーション能力が多く挙げられた。やりたかったことでは、実習内容に関することが多かった。「自分の就職先により、実習内容を選びたかった」という意見に同意する声が多く

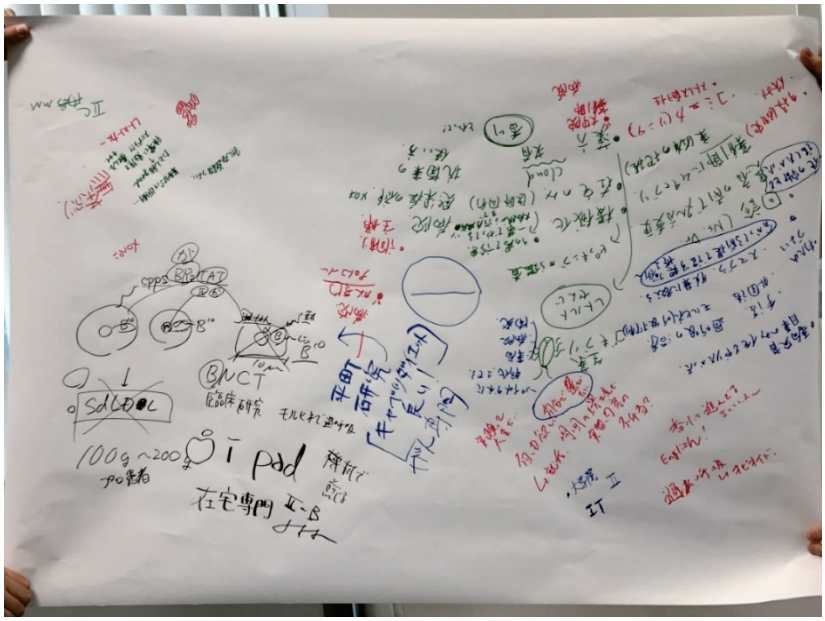
見られた。

<第３ラウンド>「私たちの進路と夢」

第３ラウンドでは、私たちの進路と夢を発表し、印象に残ったことを模造紙に書いた。

・がん専門薬剤師の認定を取得したい。
・大学院に進学し自分の専門性を極めたい。
・地域で身近な薬剤師
・一般企業で自分の専門を確立したい。

第３ラウンドでは、病院薬剤師、進学、調剤薬局、一般企業と全員が異なる進路を選んだ。同じ薬学部に所属しながら、やりたいこと、目指していることが人によりそれぞれ違うことが印象的だった。それぞれに込めた自分の思いがあり、一人では思いもよらなかった薬剤師像を聞くことができた。



ⅡＡ班－２

第一部では「私たちの進路と夢」と題し World Cafe 形式で討論を行うことで、薬学生同士の交流を深めた。各ラウンドでの討論についての要旨を報告する。

〈第１ラウンド〉「臨床現場で印象に残っていること」

・病院実習中、外国人の急患患者に対しての薬剤師の英語能力
・入院中に執筆した本をもらったこと
・薬を飲まない患者への薬剤師の対応
・聴覚障害を持つ方への手話でのコミュニケーション

１ラウンドは､イラストを用いる形式であり個性がよく現れている作品で緊張がほぐれ、

話し合いができた。４人中全員が実習中のエピソードであることから実習期間が一番密に臨床現場に携わった機会であると感じた。薬剤師の、薬学以外の知識を活かした活動を実習中に経験したことで幅広い視野を持つ薬剤師に魅力があると感じた。また、臨床実務実習中に、日本語や英語も通じないアジア系の方が来た時に、絵を描いて服薬指導したという実体験も聞くことができた。

〈第２ラウンド〉「６年間の学習で身についたことやりたかったこと」

身についたこと

・がんの研究で論文を３つ発表し学会にも参加したこと
・計画性、スケジュール管理
・ラットの研究でのラットの扱い

やりたかったこと

・OTC を学びたかった。
・臨床実務実習での施設ごとの学習内容が不統一であること

卒業研究を経て、専門性が高まったという意見を聞くことが出来た。特に、がんの治療を変えたいと熱く語る姿が印象的であった。今回のメンバーは大学内で OTC を学んでいなかったが、臨床実務実習中にドラックストアー併設の薬局で学ぶことが出来たという学生もいた。学生の中には、臨床実務実習で処方箋枚数が極端に少ないという課題も挙げられ、指導内容も様々であると感じた。

〈第３ラウンド〉「私たちの進路と夢」

・地域の薬局で地域に根ざした貢献をする。
・病院薬剤師として患者に近い薬剤師になりたい。
・薬局薬剤師として全国転勤型勤務で活躍する。
・大学病院勤務と並行し学位を習得する。

それぞれの信念を持って将来を語っている姿が印象的であった。今までの経験を活かして、将来を語っていることから具体性のある討論であった。同じ薬局薬剤師や病院薬剤師間であっても具体的に目指している像は個性があり刺激になった。また、患者や社会のために将来をどのようにしたいかという気持ちが伝わる討論だった。

総括

他大学の学生と意見交換を行う中で、多様な意見や考え方があり新しい目線から気づきや学べることがあった。また、他大学での活動を知ることで足りていなかった部分を知ることができたので良いところを吸収したいと思った。他の学生の意見や夢・将来像を聞き、自分とは異なる価値観に触れることで刺激を受けることが出来た。

Ⅱ B 班－１

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式で討論を行った。４名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えてラウンドを行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

〈第１ラウンド〉「医療現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは、早期体験や実務実習など医療現場で印象に残っていることについて発表し、模造紙に書いた。

・近隣にいくつか薬局があり、それぞれに特化した分野があるため、在庫を助け合っていたこと。
・薬局の検体室で血糖値の測定、地域の人にセミナーを開催したこと。
・病院実習にて緩和ケアでモルヒネを過呼吸の呼吸抑制に使用することを知った。
・在宅見学の際に、薬剤師も血圧測定を行う等患者さんに触れる機会が多かったこと。

第１ラウンドでは上記のような意見が出た。実務実習での印象に残ったことについての意見が多く、知識面よりも現場ならではの患者さんへの対応や医療機関の協力に対する内容が多く見られた。

〈第２ラウンド〉「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは、大学生活を振り返り身についたことや、やりたかったことについて発表し模造紙に書いた。

・大学の授業のスモールグループディスカッションを通して、コミュニケーション力や人前で意見を言う力が身についた。
・地域活動を通して、同世代以外の人とのコミュニケーションが取れるようになった。
・研究に力を入れ、将来やりたいことを見つけることができた。
・もっと長期で実務実習をして調剤以外のことをたくさん学びたかった。
・旅行に行ったり、恋人を作るなど勉学以外のことも充実させたかった。

第２ラウンドでは上記のような勉学以外での意見が多くみられた。課外活動への参加や大学のカリキュラムを通して、知識以外のコミュニケーション能力や、物事に取り組む姿勢などの精神面での成長もできたと考える。また、実務実習は実習先によって学べることが異なるため､“自分の進路に合わせた長期実習内容をできるカリキュラムがあると良かった”“調剤室の外に出て地域との関わりにも参加したかった”などの声もみられた。

〈第３ラウンド〉「私たちの進路と夢」

第３ラウンドでは、卒業後の進路やどのような薬剤師になりたいかについて発表し模造紙に書いた。

・卒業後はドクターコースに進み、精神系のメカニズムを解明したい。
・いずれは教える立場として薬剤師を育てたい。
・物流系に就職が決まっており、管理薬剤師として医薬品の安全供給を担いたい。
・病院で認定の資格を取り、スペシャリストとして患者さんの治療に貢献したい。
・地域に貢献できる薬剤師になりたい。
・マスコミに左右されない知識を持ち、地域の人の健康を正しい知識でサポートしたい。

第３ラウンドでは、上記のような意見が出た。卒業後の進路はそれぞれ違うが、全員が薬剤師としてどう社会に貢献したいか、患者さんをサポートしていきたいかの志があり白熱した話ができた。

〈私たちの進路と夢(World café)全体を通して〉

World café 全体を通して、将来目指す薬剤師像について考えることができた。大学ごとに授業の様子も違い、それぞれ異なる体験をたくさんしていたため、新たな意見がたくさん聞けて非常に良い刺激を受けた。また、初日の第一部であったため、初めはみんな緊張した様子であったが、話をする中で打ち解け意見を出せるようになっていき、第二部、第三部にも繋がるディスカッションができた。

Ⅱ B 班－２

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式の討論を行った。テーブルマスターを含む４名の小グループで､テーマごとにメンバーを入れ替えて｢ラウンド」を行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

第１ラウンド:｢医療現場で印象に残っている場面」

本ラウンドでは､｢医療現場で印象に残っている場面」の絵を始めに描き､クイズ形式(これは何の場面か？など）で絵の説明を行いながら自由に討論した。

◆討論内容
・病院実習で低体重出生新生児（600 g）の VCM 治療症例に出会いとても驚いた。
・病院実習で褥瘡回診の際、薬剤師さんの写真写りが印象的だった。(MVI 獲得)
・薬局実習で使用したミスゼロ子が画期的だった。
・病院実習で出産の慌ただしい雰囲気を実際に感じることができた。　　など

医療現場での印象は、5 年次に行った「病院・薬局実務実習」の内容がほとんどだった。実習施設が各々違うだけに話すネタは尽きなかった。｢絵で表現」したこともあり、会話がよりインパクトづけられイメージしやすかった。自分の実習施設では勉強･経験できなかったエピソードも多く、22 週間の実習期間は短く感じたと共感できるラウンドだった。

第２ラウンド:「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

本ラウンドでは、「大学生活６年間で成長したこと・もっと取り組みたかったこと」について自由に討論した。

◆討論内容

・研究スキルが身についたのと同時に、研究の必要性について理解できた。
・いろいろな友人や先生方、医療従事者と関わり、自分の視野が広がった。
・臨床現場での学習（実務実習など）をもっと行いたかった。
・研究をもっと行いたい。→　大学院に進学して行う。　など

「身についたこと」では、自分たちの行っている研究内容についての討論で盛り上がった。抗がん作用を追究や、マウスの脳に直接的に干渉する基礎実験の話から、DDS 研究、病院の症例調査といった臨床研究の話まで幅広い分野で意見を交わすことができ、研究の必要性や奥深さについてお互い理解を深めることができた。「やりたかったこと」は、やはり臨床現場での学習について挙げられ、薬学教育と実際の臨床現場とのギャップが大学問わず存在していることが印象的だった。

第３ラウンド:「私たちの進路と夢」

・本ラウンドでは、「自分たちの思い描いている進路や行いたいこと・目標など」について自由に討論した。

◆討論内容

・薬局に勤めて地域医療に貢献したい。
・地元に戻り、就職する医療機関に何十年も働きながら根付いていきたい。
・大学病院に就職し、薬剤師として働きながら大学院に進学したい。　など

将来の進路は、実務実習で実際に経験した事が関わっているという人がほとんどだった。ただ、「単なる希望」で進路を選んでいるわけではなく、「自身の性格や特徴を照らし合わせて、自分に合った進路を選んでいる」という印象が強かった。前ラウンドで臨床での学習が短いという議論が挙がったが、短くても学生に与える印象・効果は大きいのだと感じた。自分の進路について熱く語る機会は今までなかったので、今回の議論を通じて、将来へのモチベーションにもつながった。

総括

第一部ということもあり、お互いが初めて会う者同士での意見交換ではあったものの、自分の主張を発信し、コミュニケーションを図れたのは「薬剤師」を意識した薬学生であるからこそできたのではないかと今回の討論を行いながら感じた。World Café を通じて、「同じ６年間」の薬学教育を行ってきた仲間でも、経験・学習してきたことは大学によって違いがあり、それぞれの視野が広がっただけでなく、今後の議論や自分自身の将来への

モチベーションにも繋げることができたと思う。同じ大学内でも、意見の交換や討論はできるが、今回のような全国から集まった学生間で行われる意見交換は、入ってくる情報量が大きく、大学間での連携は非常に重要だと感じた。今後は社会人として歩んでいくが、このような意見交換の場に積極的に関わっていきたい。

Ⅱ C 班－ 1

第一部では「私達の進路と夢」をテーマに掲げ、World Café 形式でグループ討論を行った。3 つのラウンド毎に異なる 4 名の学生が向き合い、それぞれの経験や意見を共有した。各ラウンドについて話し合ったテーマとその概要、総括を以下に記載する。

第 1 ラウンド :「医療現場で印象に残っている場面」

・オペの間近での見学、簡単なオペ準備の経験
・小児科での実習で担当していた患者さんとの関わり
・病棟薬剤師が患者さんと一気に距離を縮めた場面
・病棟薬剤師が定期処方を医師と協働して入力している場面

第 1 ラウンドでは、「医療現場で印象に残っている場面」をイラストで表現した。本グループは全員が病院実習での経験を挙げたが、見学・経験の内容、それを通して感じ、考えたことが大きく異なりどの話も新鮮であった。それぞれが描いたイラストに関連する経験や、他のメンバーの経験について関連した話題もあがり、幅広い討論が行われた。

第 2 ラウンド :「6 年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

〈身についたこと〉
・調査能力、プレゼン能力
・実務実習においてカンファ見学、服薬指導などを体験し、薬剤師に求められること、薬剤師が他職種や患者さんにできることをある程度理解できた。
・グループ討論の経験から、人に向いた（不向きな）役割が分かるようになった。
・服薬指導の際などに必要なコミュニケーション能力

〈やりたかったこと〉
・カンファ見学などチーム医療の現場を見学したかった。
・慢性期の病院で実習を経験したが、急性期病院についても経験してみたかった。

第 2 ラウンドでは、6 年間を振り返りながら上記テーマについて討論した。メンバー間での経験の差から、身についたこと、やりたかったことにも大きな差が生じていた。上記を挙げながら、このような仕組みがあればよりよい経験ができたのではないか、といったシステムへの要望に関して議論が盛り上がったため以下に記載する。後輩達のために、こ

のような意見があるということを知っていただき、一部でも実現していただけると幸いである。

1．薬局実習・病院実習ともに実習先による経験の差を埋め合わせるため、実習先を学生が希望できる仕組み、あるいは複数個所実習を経験できる仕組み

2．５～６年次に病院薬剤師・薬局薬剤師・開発職など多岐にわたる薬学部の進路にあわせた学習ができる仕組み

第３ラウンド:「私たちの進路と夢」

・薬局薬剤師+大学院進学：薬局薬剤師から英語論文を出していくような風潮、学会やシステムの構築に関わっていきたい。

・薬局薬剤師：患者さんとの対話を大切に、処方箋がなくても気軽に頼ってもらえる薬剤師

・薬局薬剤師:１年目は大手薬局チェーンで働くが、将来的には自分で薬局を起業したい。

・病院薬剤師:疾患領域の専門性を持ち、高度医療の現場で患者さんの治療に貢献したい。

第３ラウンドでは、メンバーの進路と卒業後の夢について共有した。全員が薬剤師として働くが、目標とする薬剤師像は多様であった。既に具体的な計画を持っている人もいれば、働きながら方向性を決めていくという人もいたが、全員が患者さんや社会に対して果たしたいと思う役割は固まっていた。

総括

異なる環境で学んできた他大学の学生とグループ討論を行うことで、それぞれの経験の共有とともに多様な考え方や価値観を知ることができた。World Café 形式であったためか、メンバーそれぞれが明確な意見を持ち、発言しながらも、聞き手はそれを素直に受け入れる姿勢や雰囲気があるような柔軟性があったように感じた。刺激を与えあう・受けあうことで成長を感じる有意義な時間となったと思う。

Ⅱ C 班－２

第一部では、１グループ４名で World Café という方法を用いて「私たちの進路と夢」というテーマについて３ラウンドの討論を行った。ラウンドごとにグループのメンバーを替え、テーマについて“おしゃべり”や模造紙に“落書き”をし、意見や経験などの情報交換を行った。以下に各ラウンドの討論内容を示す。

第一ラウンド:「医療現場で印象に残っている場面」

・薬局薬剤師を信頼しており、病院で受診することなく薬を求めに来局された患者さん。

・「一包化された薬の中に高血圧の薬が入っていない」というクレームがあったが患者さん

の勘違いであった。
・統合失調症で入院されている患者さんの症状が薬を服用したことで劇的に回復した。
・抗がん剤調製において、抗がん剤の比重から採取量に問題がないか確認できる設備が備わっていた。

このラウンドでは、自分たちが実務実習で経験した印象に残っている場面を絵に描き、その絵が何を示しているのかを話し合った。メンバーの多くが患者さんと貴重な体験の話をされていたため非常に羨ましく思うと同時に、もし自分だったら患者さんにどのような対応をしていただろうか、と考えさせられる討論だった。

第二ラウンド:「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」
・海外旅行に行きたかった。
・実務実習で在宅医療をもっと経験したかった。
・薬学の知識が身についた。

このラウンドでは６年間の学習で身についたこと・やりたかったことを討論した。海外旅行に行き、外国人と話をしたり、その国の文化を知りたかったという意見や実務実習のおかげで薬学の知識が身についたという意見があった。人間性を伸ばし、更に薬学的知識を身に着けるために、プライベートと勉学ともに大切なことだと感じた。

第三ラウンド:「私たちの進路と夢」
このラウンドでは自分たちの進路や夢について討論した。メンバー４名のうち２人は病院、２人は薬局に内定が決まっており、将来どのような薬剤師になりたいかを話し合い意見交換をした。専門薬剤師の資格を取りたいという意見や実務実習の経験から、栄養学の知識を身につけ薬剤師としてより患者さんに貢献したいという意見があった。メンバーそれぞれがどのような薬剤師になりたいか意見を持っており、それが自分にとって強い刺激となり励みとなった討論だった。

Ⅲ A 班―１

第１ラウンド:「医療現場で印象に残っている場面」
医療現場で印象に残っている場面について、テーブルのメンバー各自が絵を描いて表現し、描かれた場面について１枚ずつ話し合った。描かれた場面は以下の４つである。

①病院において医師が薬剤師へ処方相談を持ちかける場面
②病院において医師と薬剤師を含む医療従事者が密に繋がっておりチーム医療が体現されていた様子

③病院において実習生である自分が入院患者の悩みの緩和を手助けできた場面
④薬局薬剤師が病院カンファレンスに参加して患者情報を把握していた薬薬連携の場面

挙げられたのは全て学外実務実習において病院や薬局で経験した事例だった。①と②は共に病院薬剤師と医師が対等な立場で密に連携を取っていたことについて言及するものだったが、①は特定の薬剤師と医師の関係だった一方で、②は院内の様々な医療従事者が連携していた幅広い関係についてのものだった。また、③では自分が患者に寄り添うことができた体験、④では薬薬連携についての体験が語られるなど、テーブルのメンバーが特徴的な取り組みを行っている実習先で様々な経験をしてきたその内容を共有した。

第２ラウンド:「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

大学６年間の学習を振り返り、何が身についたのか、そして実際はできなかったがやりたかったことについて話し合った。挙げられた意見は次の通りである。

【身についたこと】
①大学の講義等で薬物動態や副作用といった医薬品に関しての知識が身についた
②学外実務実習で他の医療職の役割を知ることができた

【やりたかったこと】
①薬物動態や副作用の知識を薬物治療の現場で上手く適用する方策についての学習
②実務実習前における他の医療職が持っている知識・技能の実際についての学習
③看護を体験する実習

身についたこととしては主に医薬品に関しての知識が挙げられ、薬学部６年間のカリキュラムのうち各大学で共通する基本的な内容についてはしっかりと学ぶことができたとした。一方で、講義で得た知識を医療現場で運用する技術に関してはまだまだ未熟なところがあり、副作用や相互作用の情報の患者への伝え方についてはまだまだ勉強不足という意見が出た。また、真の多職種連携を実現する上では他の医療従事者が持つ知識・技能について理解することが重要といった見方や、看護を体験する実習があっても良いといった意見も挙がった。

第３ラウンド:「私たちの進路と夢」

自分たちの就職先または進学先、そしてその後の夢について話し合った。テーブルのメンバー各自が順番に自分の進路について話し、他のメンバーがそれについて質問する形で進行した。進路は病院または薬局のいずれかで、全員が臨床に進むという点では一致していたが、就職先を決めた理由・夢はそれぞれ異なっていた。例えば、病院に就職して病院薬剤師としての専門性を高めつつ臨床研究をしてみたい、就職先の薬局の面分業化を進めたい、薬局グループの教育課で後進の育成に携わってみたいといった考えが挙がった。他の学生の話を聞くことで、研究や教育に関連する仕事が大学や研修施設といった専門の機関に縛られるものではなく、むしろ臨床の場こそ最も臨床研究や薬剤師教育に近いということを再確認することができるなど、実りある議論になった。

Ⅲ A 班－ 2

第一部 World Café 「私たちの進路と夢」

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式のグループワークを行い、テーブルマスターを含めた３～４人で各ラウンドのテーマに沿ったおしゃべりと、模造紙への落書きを通して情報交換をした。以下に各ラウンドの内容と第一部の感想を記す。

第１ラウンド 「臨床現場で印象に残っている場面」

それぞれが臨床現場で印象に残った場面を絵に描いてそれを見せながら発表し合った。患者さんに好きなものを選んでもらえるよう数十種の柄のお薬手帳が置いてあったこと、非常に高価な医薬品であるオプジーボを調剤して緊張したこと、看護師から薬剤師に薬に関する質問が頻繁にあったこと、が挙げられた。そのほか、メンバーのうち２名が他の学部に在籍した経験があることから、薬学部に入った理由についても話した。

第２ラウンド 「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

６年間で学んだこととして、実務実習で薬剤師業務の奥深さを学んだ、化学構造から作用機序や薬物動態を理論的に考えられるようになった、薬剤師が情報を伝える相手は患者だけでないことが分かった、との意見が出された。

やりたかったことに関しては、もっと長く研究したかったという意見と、研究より臨床のことを学びたかったという異なる意見が出たのが興味深かった。また、CBT や実務実習で研究できる期間が細切れになって大変だったという意見も出された。

第３ラウンド 「私たちの進路と夢」

それぞれの内定先や就職希望先を話した。メンバー全員が病院に就職を考えており、病院に対する就職活動の話題で盛り上がった。

短期間的な夢として、内定をもらうこと、卒業すること、国家試験に合格することが挙げられた。また、長期間的な夢については、全員が地元での就職ということで、病院薬剤師の業務を通じて地域社会の医療に貢献したいという意見が出た。

感想

学んできた環境が全く異なる人達の考えを聞くことができ、自分が当たり前だと思っていた薬剤師像を見つめ直す良いきっかけとなった。初対面同士のグループで議論が盛り上がるか不安だったが、World Café 形式のおかげで互いに打ち解けやすく、盛んな情報交換ができて非常に有意義な討議となった。ほとんどのメンバーが会話に集中してしまい、模造紙の落書きが少なかったのは残念だったので、テーブルマスターとしてもっと落書きも促せたらよかったと感じた。

Ⅲ B 班－１

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式で討論を行った。３～４名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えて「ラウンド」を行った。各ラウンドでの討論について以下にまとめる。

〈第１ラウンド〉「臨床現場で印象に残っている場面」

第１ラウンドでは、医療現場で印象に残った場面を A４用紙にイラストで表現した。その後絵だけをメンバー同士で見せあい、クイズ形式でどのような場面なのかを質問しあった。

・在宅医療
・手術の見学
・薬局実習時の地元の方とのふれあい

臨床現場で印象に残っている場面として､以上のような場面が挙げられた｡同じカリキュラムで実務実習を行っても、場所や出会う人によって全く異なった経験をしていることが分かった。また、メンバー皆がその経験を自分のこれからに生かしていこうと考えていると強く感じた。

〈第２ラウンド〉「６年間の学習で身についたこと・やりたかったこと」

第２ラウンドでは、６年間の学習で身についたこと・やりたかったことを話し合った。

・実習を通じてコミュニケーション能力を身につけた
・医療現場の実際を知ることができた
・調べる意識、力が身についた
・漢方について深く学んだ
・海外研修に行きたかった
・もっと他大学の人と関わりたかった

話し合った結果、以上のような意見が挙げられた。実務実習や大学での活動を通じて、コミュニケーション能力が身についたという意見が多く挙げられた。また、大学での講義や研究を通じ、検索する能力が身についたという意見も挙がった。また話し合うことで、大学ごとの授業の特色の違いも感じることができた。

〈第３ラウンド〉「私たちの進路と夢」

第３ラウンドでは、進路と夢、そのためにどんなことを学んでいきたいかについて話し合った。

・薬局薬剤師として在宅医療に関わっていきたい（薬だけにとらわれずに栄養や心理､マッサージなど多くのことを学んでいきたい）

・製薬企業の学術職として活躍したい（薬について、コミュニケーション能力、英語、プレゼン能力などを学んでいきたい）

話し合いの結果､以上のような意見が出た｡それぞれの進路に沿った意見が挙げられた。メンバーそれぞれの理想の薬剤師像を聞くことで、様々な立場から薬剤師として社会に関わることができるのだと感じた。また、自分の進路や夢についてや、その進路を目指したきっかけなどを、実際に言葉にすることで目標や学ぶべきことがはっきりしたと思う。

感想

最初のワークだったということもあり、開始当初はうまく「おしゃべり」や「落書き」をすることができなかったが、少しずつ打ち解けて意見を出し合えるようになった。今までなんとなく考えていたことを実際に口にすることで、自分の考えをより明確にすることができたと思う。また、メンバーがそれぞれどのようなことを学び、どのような経験をしてきたのかを知り、多くの刺激をもらうことができた。

Ⅲ B 班－２

第一部では､「私たちの進路と夢」というテーマで World Cafe を用いて各グループ３、４人でディスカッションを行った。以下に、各ラウンドの討議内容を報告する。

第１ラウンド:「医療現場で印象に残っている場面」（場面を絵に描いて）

・実習で過疎地域の認知症患者の在宅にいった。今はお薬カレンダーで服用してもらっているが、それが分からなくなってしまった時、どうやって薬を飲んでもらったらいいのか・・・
・在宅へ行ったとき、患者の奥さんから「買い物に行くから、帰るとき鍵をポストに入れておいてね」と鍵を渡された。患者家族との信頼関係を実感した。
・患者さんが薬剤師を指名していた。その薬剤師がいないことがわかるとあとで来ますと帰ってしまった。指名された薬剤師は患者さんに信頼されているのだなと実感した。
・病院で腸閉塞患者の人工糞便をつけるためのモデルをやってほしいと頼まれた。周りに看護師がたくさんいて、皆真剣なのに、自分はくすぐったくて笑いをこらえるのに大変だった。

絵を描くのは皆苦手で、それだけでは何だかわからない面白い絵が４枚出来上がった。皆、実習を通して、初めて実臨床の現場に関わることでたくさんの驚きと発見があった。一方で、今の社会の問題も実習を通して知ることができ、このラウンドで実習での出来事を思い出すことで、その後のディスカッションに様々な問題を投げかけ、討論することができた。

第２ラウンド:「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」

・コミュニケーションの力。特に学校では「簡単な言葉で説明」ということが重要であるとやってきたが、実際の現場では、患者さんはかなり知識があることを痛感し、患者に合わせた説明の仕方をもっと学んでおくべきだった。
・上記の話から続いて、「OSCE の意味」は何だったのか、という疑問が生じた。OSCE で重要とされてきたことは臨床ではほとんど使えなかった。他に学んでおくことがあったのではないか・・・
・実習に出て初めて他職種が何をやっているか、他職種のリアルに触れることが出来た。互いが何が出来て、何が出来ないかを知ることは薬学生のもっと早い時期からやってもいいのではないか？
・上記の話に対して、最近では IPE といった多職種連携教育をやっているところもある。こういった活動がさらに広がっていけばよいという話もあった。

身についたこと、やりたかったことというテーマであったが、出てくる話はこれがしたかった、あれをしておけばよかったと、やりたかったことばかりであった。それはやはり、皆が実習を通して臨床との差を痛感し、自分に何が足りていないか、そのためにはそれまでにどうしていたらよかったのかと考えた結果であると考える。様々な議論を通して、のちの薬学生教育に活かしていっていただけたら嬉しい。

第３ラウンド:「私たちの進路と夢」

・病院薬剤師としてがん専門薬剤師の認定を受け、患者さんの医療に貢献したい。
・行政の立場から、2025 年問題や地域包括ケアの問題を考え、地域から社会問題を解決していきたい。
・患者や医療従事者との関係性を深めて、より薬剤師としてやれることを増やしていきたい。また薬学生教育にも力を入れていきたい。

一口に薬剤師になるといっても様々な道があり、やりたいこと、未来像も各々で、話し合いを通してそれぞれ視野を広げることが出来た。また、行き着く最終地点は皆、患者さんや社会のための貢献であり、薬剤師の職域を狭めることなく、様々な立場から薬剤師として活躍していくことを明確化することが出来た。

第一部まとめ

ワークショップの始まりを World Café から始めることで、小さなグループの議論から始めることが出来、緊張もほぐされ、その後のディスカッションにスムーズに入ることが出来たのではないかと思います。また、World Café で自分自身の考えを整理、説明し、また仲間の意見を聞き、それらを組み込むことで、大きなテーマである「社会への貢献」を考える上で重要な第一歩になりました。皆がそれぞれの価値観を持っており、様々な角度か

ら話をすることで、自分自身の視野を広げることが出来たと思います。３回のラウンドを通して、各々が素晴らしい旅人の交流が出来たのではないかと実感しています。

Ⅲ C 班－１

第一部では「私たちの進路と夢」というテーマで、World Café 形式で討論を行った。３～４名のグループで、テーマごとにメンバーを入れ替えた。各ラウンドでの討論について以下に記載する。

第１ラウンド：医療現場で印象に残っている場面
・在宅医療における、患者の家族との距離の近さ
・地域の人との距離の近さ
・病院のカンファレンスにおける薬剤師の役割
・薬剤師と他の医療従事者との関係

白紙にそれぞれ医療現場で印象に残っている場面の絵を書き、クイズ形式で当てることから始めた。その作業により各々の緊張もほぐれ、自由かつ活発な討論を行うことができた。

第２ラウンド：６年間の学修で身に付いたこと・やりたかったこと
・論文を読む力が付いた
・早い段階で臨床に関する講義をしてほしい
・国家試験対策を学校でもっと行ってほしい
・OSCE の内容を実習でもっと活かせる内容にしてほしい

第１ラウンドのグループ内で出た印象が強い話を共有してから、本テーマについて議論した。大学ごとで学び方が異なり、それぞれの大学の長所・短所が、学生の視点から浮き彫りになるものであった。また、身に付いたことよりも教育への疑問や要望の方が圧倒的に多かった。

第３ラウンド：私たちの進路と夢
・病院薬剤師として、一人一人しっかり患者と向き合い治療を提供したい
・薬剤師として、発展途上国で活躍したい
・地域医療に貢献したい
・企業の研究者として、健康寿命の延伸に貢献したい

第２ラウンドのグループ内で出た印象が強い話を共有してから、本テーマについて議論

した。一人一人進路と夢が異なり、少なからず実習の印象から就職先を選択している傾向が見られた。その点でも、６年制教育の実習期間は有意義なものであると感じる。

Ⅲ C 班－２

第一部では、「私たちの進路と夢」というテーマで World Café 形式にて３ラウンドの討論(おしゃべり)を行った。ラウンドごとに３～４名ずつの異なるメンバーがテーブルに集まった。各テーマに関する自分の考えや意見を交換し、気付き・感想を模造紙に自由に記入した。以下に各ラウンドの討論内容についてまとめる。

<第１ラウンド>テーマ「医療現場で印象に残っている場面」

このテーマについては、まず、各人が医療現場で印象に残っている場面を描写し、それを他のメンバーがどんな場面であるか回答したのち、答え合わせをする形式をとった。<チーム医療の場面><薬剤師だけに悩みを打ち明ける場面><薬剤師の意外な一面>というのが大まかな内容であった。

・チーム医療への参画
・薬剤師の理想の形
・在宅医療
・第一印象の重要性
・信頼をつかむ
・いろいろな人とのかかわり

第１ラウンドでは上記のような意見がでた。いずれの描写も病院での実務実習で印象に残った場面であった。大学の講義においても度々、チーム医療という言葉を耳にしてきたが、その実際の場面を見て、参加できたことは非常に有益な体験であったようだ。また、薬剤師に対してだけ、悩みを打ち明けてくれる患者さんがおり、そのような関係性を築けることが一つの理想の形ではないかという議論にもなった。大学在学時に、実際の医療現場で実習を行い、そのイメージを　　膨らませることができたことはとても良い経験になったと感じている。

<第２ラウンド>テーマ「６年間の学修で身についたこと・やりたかったこと」

・コミュニケーション力がついた
・効率が良くなった
・テストをギリギリで受かる力がついた
・通学時間を有効に利用できるようになった（ゲームも上手くなった・・・）
・勉強する力がついた
・うまく気分転換をすることができるようになった

第２ラウンドでは上記のような意見がでた。最も多かったものとして、コミュニケーション力がついたというものがあった。これについては、OSCE や実務実習を通して、人と会話をする機会が多かったことや、相手の気持ちを感じ取る重要さを理解しているからこそ身についたものである。また、学力が上がったという前提のもと、自分の時間をうまく作り、使うことができるようになったなどの意見があった。さらに、テストをギリギリで受かる力がついたという意見については、今後多忙な業務を許容範囲内で全てこなすという点において、非常に大切な能力の一つが身についたのではないだろうか。このように、内容に幅のある、非常に活発な意見が飛び交った。

<第３ラウンド>テーマ「私たちの進路と夢」

・薬局で働く
・CRC として働く
・いずれ実家に戻る
・在宅に力を入れる

第３ラウンドでは上記のような意見がでた。今回のメンバーは、すでに就職先が決まっており、そこでどのように頑張っていくかについて議論が進んだ。厳しい業務が想像されるが、はじめはその厳しい環境に身を投じてみたいという意見もあれば、将来的に地元に戻ることを意識しつつ、都会で何年か働いてみたいという意見もあった。卒業後の進路から、中期、長期的な進路についても考えており、５年後、10 年後に実際にどうなっているのか期待される議論になった。

＜総括＞

全てのラウンドでメンバーが交代することで、多くの学生と意見交換をすることができ、その後の議論に向けてよいウォーミングアップができた。各大学の教育環境であるとか、各人の薬学教育に対する考え方を知る良い機会であった。また、将来的な自身の展望（直近から長期的なところまで）についてもうかがうことができ、同世代の学生が今後薬剤師としてどのように活躍していきたいかという具体的な考えを知り、とても刺激を受けた。この刺激を大切にし、私自身もさらなる努力をしなければならないと感じる第一部となった。